

ハイパーコーポレートユニバーシティ



# 開催記録

—— from 2005 to 2020 ——

ハイパーコーポレートユニバーシティ 【AIDA】 運営委員会

編集工学研究所

第1講 2005.12.11 [会場] 水月ホテル鶴外荘

## 「日本の [近代] と [現代] をめぐる AIDA」

松岡塾長ソロ講義

- 明治のグローバリゼーション ● 「青」と「立」の明治
- 「公」と「私」のあいだー伊藤博文と板垣退助ー
- 「和魂洋才」か「洋魂和才」か ● おおもとの欠如
- 2つの「J」ーJesusとJapan- ● 「キリスト教」と「武士道」
- エディトリアルエクササイズー見えないオーダーを発見するー
- 「国家」と「個人」のあいだ ● 日清と日露のあいだ ● 乃木希典の殉死と森鷗外



第2講 2006.1.14 [会場] 山の上ホテル

## 「日本の [デザイン] をめぐる AIDA」

ゲスト: 内田繁 (インテリアデザイナー)

- 日本文化における「仕切の構造」
- 「和」「洋」の融合から生まれる独自性 ● 日本画の誕生
- 日常のものを創れるデザイナー ● 日常的時間と非日常的時間ー家とキャバレー
- これぞ日本のデザインと言えるモノ (受講生課題発表)
- 「数寄」とデザイン ● 近代数寄者と企業家 ● 「タテの文化」「ヨコの文化」
- 「和」のモダニズム ● 「弱さ」という感覚世界のデザイン



第3講 2006.2.18-19 [会場] 伊豆修善寺「新井旅館」

## 「日本の [こころ] をめぐる AIDA」

ゲスト: 大倉正之助 (能楽師)、西松布咏 (邦楽家)

- 「仕」「仕切る」ということ ● 日本の伝統芸能にひそむ情感
- 拍子とリズムのあいだ ● 「あいだ」を詩にする (受講生課題発表)
- お稽古 (リアルエクササイズ): 小唄・三味線・鼓
- 大倉正之助&西松布咏特別セッション ● 「荒魂」と「和魂」
- 日本文化における水平感覚 ● 「葉隠」にみる日本人の精神の所在



第4講 2006.3.21 [会場] 学士会館

## 「日本の [表] と [裏] をめぐる AIDA」

ゲスト: 猪野健治 (ジャーナリスト)

- オモテとウラから成り立つ日本社会
- 日本を動かす黒幕 (フィクサー) の存在と役割
- 日本近代史における右翼 ● 日本人とヤクザ
- 右翼は右か、左翼は左か ● 組織と日本人
- なぜ「裏社会」はなくなるのか



第5講 2006.4.15 [会場] 東京都国立博物館

## 「[グローバリズム] と [ローカリズム] をめぐる AIDA」

松岡塾長ソロ講義

- 日本におけるコマンドングハイツとは何か
- 市場は国家に内属しているか ● 日本が依拠する資本主義とは
- 世界情勢からみた軍事問題 ● メディアステートとしての日本
- 外来コードと内生コード ● 日本という方法



## 第1講 2006.11.25 [会場] 西蔵院

## 「[日本]と[アジア]のAIDA」

松岡塾長ソロ講義

- 日本はどこにいるのか ● 「あいだ」とは何か ● アジアと日本
- 密教の世界観 ● 日本と世界のあいだを生きる男たち
- 井真成(奈良時代にシルクロードを目指す) ● 新渡戸稲造(キリスト教と日本人、武士道)
- イサムノグチ(アメリカと日本のあいだの芸術)
- 日本と中国、日本とアメリカ ● 世界都市を考える(長安から上海へ)
- エディトリアルエクササイズ—編集は関係の発見— ● 「あいだ」を見つめ境界を引き直す

## 第2講 2006.12.9 [会場] 神田明神

## 「[イメージ]と[マネージ]のAIDA」

ゲスト:平尾誠二(神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー)

- 多様な神の国日本—天津神と国津神、神仏習合 ● 目に見えない神のイメージ—依代と影向
- 「イメージ」と「マネージ」を編集する
- ゲームの型を知る—野球型からゴール型に変化する社会
- 日本ラグビーが世界に勝てない理由 ● チームプレーと個人のパフォーマンスのバランス
- 脱平均点主義—長所を最大限に生かす方法論
- 戦略よりもモチベーション—個人差をどうつなぐか
- 「スペース」を持ち込むポジショニング ● ゲームリーダーとチームリーダーの違い
- スポーツのゲームメイクとビジネスにおける共通点(受講生課題発表)
- エディトリアルエクササイズ—言葉の連想、イメージの見立て—

## 第3講 2007.1.27 [会場] 自由学園明日館

## 連熟・絆走祭「風来ストリート」

ゲスト:石山篤、田中浪、福原義春、小堀宗実、高橋陸郎、エバレット・ブラウン

## 第4講 2007.2.3 [会場] 如水会館

## 「現代の日本社会をめぐるAIDA」

ゲスト:加藤秀樹(構想日本・代表)、川勝平太(国際日本文化研究センター教授)

- 日本における「鬼」の意味—克服すべきもの ● 「個別知」「共同知」「世界知」
- 浮足立ち症候群と居直り合併症 ● 企業の価値をどこに置くのか—時価会計の問題
- 「能力主義」と「効率化」が日本の将来を切り刻む
- グローバルスタンダードとドメスティックルール ● 「17歳のための世界と日本の見方」(受講生課題発表)
- 日本の歴史的な国家変遷と現在の国家のあいだ ● 日本の展望—「ガーデンアイランド」構想

## 第5講 2007.2.17-18 [会場] 鎌倉鶴岡八幡宮

## 「日本の[こころ]をめぐるAIDA」

ゲスト:安田登(能楽師)

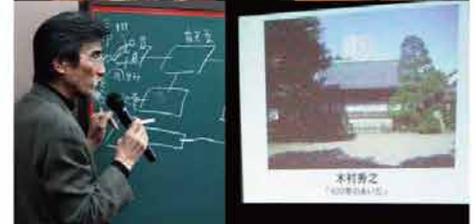
- 八幡信仰と武家の歴史 ● 武(ものふ)とは何か—たたかう心と忍ぶ心
- マッカーサーが尊んだ鎌倉八幡宮 ● 天問—問う力が思考を豊かにする
- 文—象徴を通して物事の変化を読み解く ● 「ワキ」から見た能世界—境界に立つもの—
- 「表」と「裏」のあいだ—あわいの空間から生まれる能
- 世阿弥「初心忘るべからず」—つねに切り捨てることをおそれない心
- 能から見た物理学—「1」と「0」のあいだに宇宙の本質が介在する
- リアルエクササイズ・ボディワーク—ロールフィング
- 安田登特別セッション朗読—「憂国」「夢十夜」 ● お稽古:即興「謡い」づくり

## 第6講 2003.3.3 [会場] 国際文化会館

## 「日本の[内]と[外]のAIDA」

松岡塾長ソロ講義

- 日本社会における「外」の意味—仕切り・結界
- 日本の「内」と「外」を編集する—ジョサイア・コンドル
- 「荒魂」と「和魂」—日本の源流にある1対のメソッド
- 負の方法としてのわび・さび ● 「これがわび・さびだと思えるモノ」(受講生課題発表)
- 企業における「ワキ」の役割 ● 現代社会のなかでわれわれはどの「AIDA」にいるのか



## 第1講 2007.10.13 [会場] 国立科学博物館

松岡塾長ソロ講義

## 「日本の [近代] と [現代] のAIDA」

- 岡倉天心展見学 \* 東京藝術大学美術館
- 列強入りを目指した明治維新の矛盾
- 岡倉天心が掲げた「文明文化の日本」
- 伝統と創造の両翼—「日本画」の誕生と東京美術学校
- 「茶の本」—天心が海外に放った無比の哲学
- 二者択一を排し、「あいだ」に分け入る方法
- 専守防衛の是非と日本のアイデンティティを問う
- 有事に急造される日本—「国体」と「異胎」のあいだ
- 近代化が抱える「負」を引き受けてた西郷隆盛
- 現代社会における資本主義モデルとグローバリズム

## 第2講 2007.11.16 [会場] 明治神宮

## 「[イメージ] と [マネージ] のAIDA」

ゲスト：前田日明 (元格闘家、リングス代表)

- 日本人であることを意識した三島由紀夫の自死
- 自らが培ったものを生かすために総合格闘技を切り拓く
- 天寿一天から授かった能力を全うする
- 「武道」精神を極める先に到達する身体との合一感
- 神秘と妖艶さを具現する刀剣の美 \* 前田氏所蔵刀剣披露
- 感情をぶつけあうことが人間関係のセンサーを育てる
- 前田日明「格闘名シーン」
- 「現代日本が失ったもの・今後発展させたいもの」(受講生課題発表)
- 今の日本に必要な「苗代」—間接話法によるシステムづくり
- 西洋(英語)のアルゴリズムと東洋(漢字)の象形性
- ローカリズムにひそむ日本の尺度文化

## 第3講 2007.12.22 [会場] 草月ホール

## 「現代の日本社会をめぐるAIDA」

ゲスト：内田繁、しりあがり寿、清水博、西松布咏、浅葉克己、植田いつ子、井上鑑、福原義春、小堀宗実

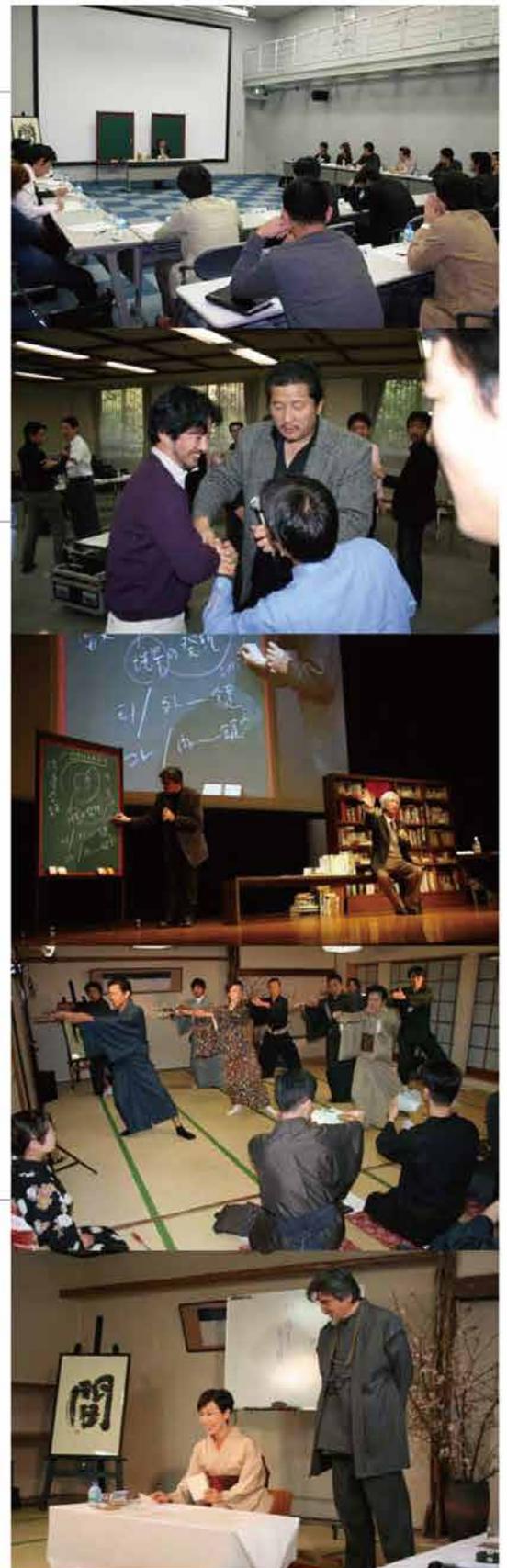
## 第4講 2008.1.19-20

[会場] 小石川後楽園、朝陽館、江戸東京博物館

## 「[粹] と [野暮] から読み解く近世日本」

ゲスト：田中優子 (日本近世文化研究家・法政大学教授)  
花柳千寿文 (舞踊家)、西松布咏 (邦楽家)

- 日本の国体の基礎を築いた水戸イデオロギーと朱舜水
- 盲目の民と遊女に始まる邦楽の系譜
- 「風流ふりゅう」—近世のポップス浄瑠璃がもたらした芸能革命
- 「俳諧」「小唄」「小袖」—ショートカット・バージョンから生まれた新潮流
- 「黒田節」 \* 舞踊指導：花柳千寿文
- 「タブー」と「見立て」—虚実混交のうつしの美学
- 日舞「黒髪」「吉三節分」\* 舞踊：花柳千寿文 三味線と唄：西松布咏
- 「連句」—付け合いと付き合い—間合いの極意
- 個人の能力を生かす江戸の機能集団「連」
- 江戸文化を支えた「粹」—「艶」「意気地」「あきらめ」の精神
- 川柳指導 \* 講評：田中優子
- 「いきの構造」—「同一性を守る西洋」×「異質性に魅かれる日本」



## 第5講 2008.2.9 [会場] 銀座十字屋ホール

## 「建築から見た現代社会の様相」

ゲスト: 隈研吾 (建築家)

- 建築作品見学ツアー「村井正誠美術館」～「サントリー美術館」
- 資本主義社会とモダニズム建築
- 「脱グローバリズム」-日本が枯れてゆく時代に登場した第4世代
- 戦後失われた日本独自の空間文化への回帰
- 「木」「和紙」「土壁」-伝統素材から生まれるフレンジな建築
- ゲニウス・ロキエ場所にひそむ「地霊」の力
- 何を分母(歴史・環境)において建築を語るか
- 「公」の領域から「私」の領域への転換
- 住宅-思想や経済力、美意識、能力の全てを表明するもの
- 建築模型解説「サントリー美術館」「ティファニー銀座」
- 「モノに還元できない要素」がデザインの原点
- 「負ける建築」-制限をプラスに反転させ環境や人に寄り添う発想



## 第6講 2008.3.1 [会場] 畠山記念館

松岡塾長ソロ講義

## 「[日本]と[世界]・[個人]と[組織]のAIDA」

- 畠山美術館展覧会「花によせる日本の心」
- 企業に求められる日本の方法
- 討談「日本と世界のまちがい及び全6講の内容について」  
3人×6組対抗 トーナメント式  
予選3試合 決勝1試合 優勝チーム選定
- グローバルスタンダードに編集的方法を持ち込む
- 文脈編集・場面編集・時間編集
- 二項同体—subject (テーマ)の対立をmethod (方法)で超える
- 資本主義の確立と同時に発生した無意識の領域
- コマンドニングハイツをめぐる「市場」と「国家」の行方
- 世代が共有する日本の「本来」と「将来」のあいだ

## 第1講 2008.11.1 [会場] 法曹会館

## 「金融危機」と「情報」のAIDA 松岡塾長ソロ講義

- 証券誕生と金融工学のAIDA
- 情報は生きている～粘菌類にみる情報と編集
- エディトリアルエクササイズ～オーダーを動かす、分母を変える
- 東洋と西洋のAIDA～西田幾多郎：禅と絶対矛盾的自己同一
- 科学と文化のAIDA～湯川秀樹：素粒子の奥の宿屋と胡蝶の夢
- 科学者の視点～環境世界と情緒の数学
- いま「世界の見方」を問う方法としてのAIDA
- 「モノに還元できない要素」がデザインの原点
- 「負ける建築」―制限をプラスに反転させ環境や人に寄り添う発想

## 第2講 2008.12.6 [会場] 国立科学博物館

## 「数学モデル／非線形をめぐって」

ゲスト：合原一幸（東京大学生産技術研究所教授）

- 幼年期の意識、「世界の見方」との出会い、忘れてきたもの
- 非線形科学で見えたものと金融工学の間違い
- 数理モデルで読み解く企業活動の現場
- カオス理論の衝撃とスモールワールドモデル
- 脳科学、抗癌治療における複雑ネットワーク理論の活用に学ぶ
- 複雑系でとらえなおす柔らかな自己と生命

## 第3講 2008.12.20 [会場] 原宿クエストホール

## 連塾「JAPAN DEEP2 浄土に焦がれて羅刹に遊ぶ」

 ゲスト：いとうせいこう（作家・クリエイター）  
 藤原新也（写真家・作家）、  
 川崎和男（デザインディレクター）

## 第4講 2009.1.17～18 [会場]：高野山金剛峰寺、蓮華定院、大師教会

## 「密教の方法と日本人の身体文化」

 ゲスト：松永有慶（高野山真言宗管長）、中村明一（作曲家、尺八演奏家）  
 村上保壽（高野山真言宗教学部長）、添田隆昭（高野山蓮華定院住職）

- 密教の特徴～総合性、多元性、象徴性、官能性、身体性
- 高野山の包容力、カオスと曼荼羅のコスモロジー、個を超える欲望
- 空海が構想した「日本のプログラム」に学ぶ
- 日本古来の身体性と密息、見えないものを感じる非整数倍音の音楽
- 中村明一 尺八演奏
- リアルエクササイズ 密息ワークショップ
- 母なる空海、2つのOS、教相・事相の組み立て、そして切断点の創出へ



第5講 2009.2.14 [会場]: La Piccola

## 「方法としての姜尚中～ [近代世界] と [日本] の AIDA」

ゲスト: 姜尚中 (国際政治学者)

- 近代の日本経済～ローマクラブ『成長の限界』から金融崩壊まで
- ナショナリズムとパトリオティズムの肉離れ
- ヴァナキュラーなクラフトマンシップの可能性
- 企業における異質と同質、本音と建前、相互承認
- 米国暴走の由来、基軸通貨のゆらぎ、世界の三極ブロック化
- 脱官僚化、道州制の導入、東北アジア共同体のシナリオ



第6講 2009.3.7 [会場] 日本科学未来館

松岡塾長ソロ講義

## 「 [企業] と [自由資本市場主義] の AIDA 」

- 21世紀科学像の読みかえから見えるもの
- カオスに向かう宇宙と、生命発生から意識獲得を経て均質化に向かう現代社会
- グループディスカッション「いま、自分が見据えたい[AIDA]」
- コンプライアンスの呪縛、コスト高のコーポレートガバナンス、増大する「自己」のリスク
- 米国式自由資本市場主義、ポランニーの「悪魔の碾き臼」、反グローバリズムの潮流
- 「入口の民主主義」と「出口の自由主義」、多数支配の原則とラディカルな少数者
- 菊池寛と文芸春秋、「掛け値」が動く「意味の市場」の創出へ



第1講 2009.10.3 [会場] スタジアムプレイス青山

「[心身]と[型]をめぐるAIDA」 松岡塾長ソロ講義

- ◎ 人類の心身分離問題?音読から黙読へ
- ◎ 「グローバルスタンダード」から「デュアルスタンダード」へ
- ◎ 宮本武蔵の命がけの実利主義
- ◎ 「型」をいかに生み、どこで使うか
- ◎ 松岡正剛の読書の「型」
- ◎ 読書行為の中に身体と心を預ける
- ◎ 「オ」はヒトでなくモノに宿る
- ◎ 「日本」を取り戻す



第2講 2009.11.7 [会場] La Piccola

「[生]と[死]をめぐるAIDA」

ゲスト:北西憲二(心理療法家、森田療法研究所所長)

- ◎ 「個別知」と「共同知」と「世界知」
- ◎ ネット社会の不足を埋める東洋的な知
- ◎ 「生」と「死」のあいだに立つとは
- ◎ 東洋と西洋の葛藤から生まれた森田療法
- ◎ 「現実」と「恐怖」と「欲望」の関係
- ◎ 健常と病気のあいだ
- ◎ 個の問題と組織の問題のあいだ



第3講 2009.12.19 [会場] 新宿パークタワーホール

連塾「JAPAN DEEP4 年末の胸騒ぎ、日本の武者震い。」

ゲスト:勅使河原三郎(舞踏家)  
高山宏(評論家、英文学者)  
川瀬敏郎(花人)



第4講 2010.1.16~17 [会場]:諏訪湖畔/かたくら諏訪湖ホテル

「[言語]と[身体]をめぐるAIDA」

ゲスト:坪井香穂(武道家)、佐藤響子(身体気流法指導者)

- ◎ 直立二足歩行と社会との出会い
- ◎ 古(いにしえ)とは、技・業・身体「なり」
- ◎ 恐怖と欲望の間に人を置く
- ◎ 現実の身体、記号としての言葉、想像力
- ◎ インプレッションとエクスプレッション/吸う息と吐く息
- ◎ 宿舎内道場でのワークショップ/早朝寒稽古
- ◎ 内なる自然と外の自然



第5講 2010.2.11 [会場]:湯島聖堂

「[漢/から]と[和/やまと]をめぐるAIDA」

ゲスト:中谷巖(経済学者)

- ◎ 諸子百家のイデオロギーとポトフォリオ
- ◎ 信頼とルールと倫理観
- ◎ 日本の美意識と文化的伝統
- ◎ 世界の中心の不在
- ◎ 「からごころ」と「やまとごころ」
- ◎ 啓蒙と支配と法と制度
- ◎ 多重・多層・多元にわたる日本の仕組み
- ◎ グローバリズムに代わる「単位」とは
- ◎ 文化とは矛盾である

第6講 2010.3.13 [会場] 求道会館

「[足し算]と[引き算]をめぐるAIDA」

松岡塾長ソロ講義

- ◎ 心と体の間から生むもの
- ◎ 編集と引き算の関係
- ◎ 編集とヒューリスティックスの間にあるオプション
- ◎ 入り口の民主主義と出口の民主主義
- ◎ ネガティブモールドとポジティブモールド
- ◎ 明治維新の裏にある価値観
- ◎ セパレーションとイニシエーションとリターン
- ◎ マレビトの必要性

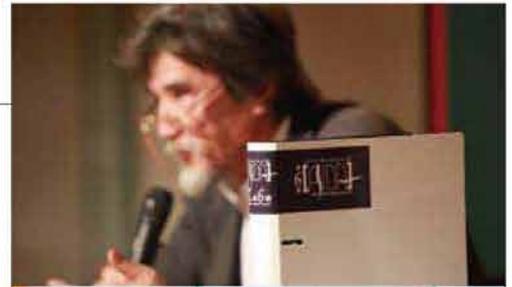


## 第1講 2010.10.2 [会場] ラ・コレツツイオーネ

## 「[公]と[共]と[私]のAIDA」

松岡塾長ソロ講義

- ◎「個別知」と「共同知」と「世界知」
- ◎「private (私)」と「public (公)」
- ◎「目次読書法」と「マーキング読書法」
- ◎日本という方法の中の「公・共・私」
- ◎価格と市場のAIDAにあるもの
- ◎使用価値と伝統と文化
- ◎マネーと情報と言語



## 第2講 2010.11.6 [会場] 青山スパイラルホール

## 連塾「ブックパーティースパイラル巻1 本の風」

- ゲスト：五木寛之 (作家)  
 鴻巣友季子 (翻訳家・エッセイスト)  
 今野裕一 (編集者)  
 佐藤優 (作家)  
 清水真理 (人形作家)  
 津田大介 (ジャーナリスト)  
 中谷巖 (経済学者)  
 長谷川真理子 (進化生物学者)  
 福原義春 (資生堂名誉会長)  
 前田日明 (元格闘家・リングスCEO)  
 安彦良和 (漫画家)



## 第3講 2010.11.23 [会場]:ラ・ピッコラ

## 「近代日本に見る [公・共・私]」

ゲスト: 松本健一 (評論家)

- ◎ナショナリズムとパトリオティズム
- ◎ロマンティズムとリアリズム
- ◎明治天皇と乃木希典
- ◎三島由紀夫と司馬遼太郎
- ◎第三の開国へ
- ◎世の中は思想で動く
- ◎「地」と「図」の情報抽出法



第4講 2011.1.15～16 [会場]：奈良 (春日ホテル、奈良県新公会堂、春日大社)

「古代日本に見る [公・共・私]」

ゲスト：千田稔 (歴史地理学者)、安東麟 (古代文字書家)、  
中東弘 (枚岡神社宮司)

- ◎東大寺戒壇院・四天王
- ◎ネットワーク型仏教システム
- ◎春日大社の歴史を歩く
- ◎藤原家に見る古代日本の公・共・私
- ◎白川静の「漢字」の世界
- ◎甲骨文字の書道体験
- ◎十玄縁起～華嚴から密教へ



第5講 2011.2.11 [会場] ラ・コレッツィオーネ

「現代の経済に見る [公・共・私]」

ゲスト：原丈人 (実業家)

- ◎顔の見える「公益資本主義」
- ◎金融ビジネスの時間軸
- ◎投資家と経営者の関係
- ◎マーケティング図解術
- ◎想起と察知の編集的思想
- ◎空想社会主義を現実社会主義へ

第6講 2011.3.4 [会場] ラ・コレッツィオーネ

「日本という方法から見た [公・共・私]」 松岡塾長ソロ講義

- ◎HCU第6期総振り返り
- ◎自分と「公・共・私」のAIDA
- ◎これからの自分に向けて
- ◎千夜千冊高速解説
- ◎日本という方法から見た「公・共・私」

第1講 2010.10.2 [会場] スタジアムプレイス青山

## 「日本と日本のAIDA」

松岡塾長ソロ講義

- ◎日本と日本の「間」
- ◎『日本流』とジャパン・マザー
- ◎直伝「セイゴオ式読書術」フルバージョン
- ◎津波と複式夢幻能
- ◎日本のクリエイティビティ



第2講 2011.11.12 [会場] 青山スパイラルホール

## 連塾「ブックパーティスパイラル巻3 本を聴きたい」

ゲスト： 観世鏡之丞（能楽師）

高橋睦郎（詩人）

唐十郎（劇作家・演出家）

華恵（エッセイスト）

町田宗鳳（比較宗教学者）

水原紫苑（歌人）



第3講 2011.12.3 [会場] スタジアムプレイス青山

## 「熟議を通じた日本と世界のAIDA」

ゲスト： 鈴木寛（参議院議員、前文部科学副大臣）

- ◎『面影日本 Roots of Japan(s)』とクールジャパン
- ◎熟議ワークショップ
- ◎日本と世界の課題
- ◎「方法日本」5つのメルクマール



第4講 2012.1.21~22 [会場] 平泉平泉文化遺産センター、中尊寺、ホテル武威坊

「東北と日本をめぐるAIDA」

ゲスト: 赤坂憲雄 (民俗学者・東北学・東日本大震災復興構想会議委員)  
小池純代 (歌人・イシス編集学校師範)

- ◎日本の奥六郡で母国再生を考える
- ◎「学んでいない歴史」とthe System
- ◎平泉吟行・歌合体験～文化基盤としての「うた」
- ◎「おくのほそ道」と東北学とジャパンマザー
- ◎復興構想と民俗学
- ◎異形・異界と差別～「意識の辺境」を抱え込む
- ◎多様・重層な日本観へ



第5講 2011.2.11 [会場] スタジアムプレイス青山

「国家と国家のAIDA」

ゲスト: 佐藤優 (作家・元外務省主任分析官)

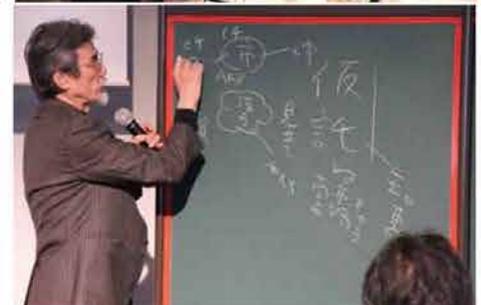
- ◎3.11をめぐって～危機と宗教
- ◎存在学と国家論
- ◎日本社会をどう強化するか
- ◎インテリジェンスと国家



第6講 2012.3.3 [会場] スタジアムプレイス青山

「日本という方法から見た [公・共・私]」 松岡塾長ソロ講義

- ◎HCU第7期総振り返り
- ◎ジャパンプロブレム 10番目の問題
- ◎8つの編集工学と現代日本のための2つ
- ◎千夜千冊高速講義『物質文明・経済・資本主義』からの3夜
- ◎千夜千冊高速講義『一般システム思考入門』からの3夜



第1講 2012.10.6 [会場] スタジアムプレイス青山

「社会と情報のAIDA」

松岡塾長ソロ講義

- ◎千夜千冊高速講義 全16夜
- ◎東と西の資本主義の発生
- ◎経済と宗教の関係
- ◎国際社会における一極と多極
- ◎「意味に飢える社会」と「コミュニティ」



第2講 2012.11.3 [会場] スタジアムプレイス青山

「西洋の宗教観と経済のAIDA」

ゲスト: 大澤真幸(社会学者)

- ◎特殊性から普遍性へ至る一神教
- ◎「3・11」後の哲学
- ◎「共に苦しむ神」という思想
- ◎ 問いを立てる力
- ◎「第三者の審級」という立脚点



第3講 2012.12.8 [会場] スタジアムプレイス青山

「インテリジェンス～未知と既知のAIDA」

ゲスト: 手嶋龍一(外交ジャーナリスト・作家)

- ◎情報をひきだす「20の扉」ワークショップ
- ◎インテリジェンスとインフォメーション
- ◎大戦時オフィサーの系譜
- ◎動乱の年を読むインテリジェンス
- ◎尖閣諸島問題を情報戦略としてみる
- ◎TPP対ASEAN+6



第4講 2013.1.19~20 [会場] 伊勢

「日本神話と現代日本のAIDA」

ゲスト:アレックス・カー(東洋文化研究家・作家)

- ◎式年遷宮の伊勢で日本を考える
- ◎失われた日本、残された日本
- ◎「見立て」という方法の可能性
- ◎日本の深層を読む~日本神話構造マップ
- ◎近代日本の国家神道
- ◎五十鈴塾「書」コラボレーション体験



第5講 2013.3.2 [会場] ゴートクジISIS

「公と共と私のAIDA」

ゲスト:金子郁容(慶応義塾大学教授)

- ◎各国のソーシャルアントレプレナー
- ◎日本における公・共・私
- ◎ボランタリー経済の誕生
- ◎コミュニティ・ソリューションのケーススタディ
- ◎ボランティアと「囚人のジレンマ」
- ◎ディスカッション:ペイトソンの論理階型モデル
- ◎ソーシャル・メディアの可能性



第6講 2013.2.9 [会場] ゴートクジISIS

「情報・社会・編集」

松岡塾長ソロ講義

- ◎情報の発現 宇宙・生命・人間
- ◎ヒトの登場 道具・言葉・群居
- ◎社会と力 集住・支配・交換
- ◎日本の場合 列島・神仏・公武
- ◎資本主義 機械・産業資本・統計
- ◎情報の世紀 コンピュータ・自由・インターネット
- ◎方法の未来 伝統力・複雑系・編集力

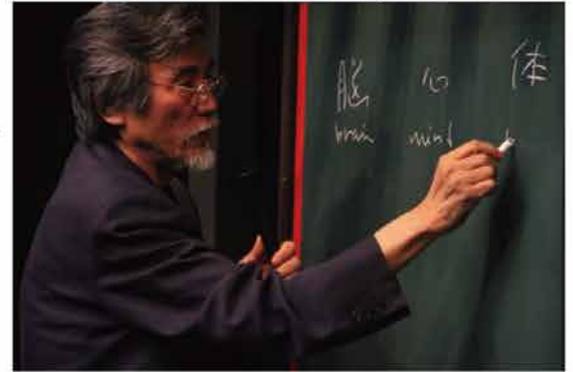


## 第1講 2013.10.5 [会場] ゴートクジISIS

## 「[脳]と[心]と[身体]のAIDA

松岡塾長ソロ講義

- ◎自己 (Self) とは何か
- ◎3つの世界のAIDA (数値と意識と芸術)
- ◎セイゴオ多読術ワークショップ
- ◎「脳」の中に抱えたワニとネズミとヒトの矛盾
- ◎直立歩行が生んだ「ハダカの猿」
- ◎一神教と多神教のAIDA



## 第2講 2013.11.2 [会場] ゴートクジISIS

「複雑系の世界 脳から国家まで  
—白川静で紐解く[脳]と[心]と[身体]—

ゲスト: 中田力 (脳神経学者)

- ◎漢字の成り立ちから世界を見る
- ◎「脳と心」、「電流と磁場」
- ◎脳と心とポリアの壺
- ◎組織に見る複雑系
- ◎非線形の時代を生き抜く
- ◎東洋思想と複雑系



## 第3講 2013.12.7 [会場] ゴートクジISIS

## 「トヨタウェイの中にひそむAIDA」

ゲスト: 張富士夫 (トヨタ自動車名誉会長)

- ◎アメリカ流と日本流のAIDA
- ◎ラインストップで品質を上げる
- ◎日本式の「小さな改善」
- ◎狩猟型のアメリカ企業、農耕型の日本企業
- ◎「人間の尊重」と「人間性の尊重」
- ◎多能化によるチームワーク
- ◎世界企業としての使命



第4講 2014.1.18-19 [会場] 広島・宮島

「スポーツにおける [脳] と [心] と [身体]」

ゲスト：為末大 (陸上競技選手)

- ◎夢中を呼び起こす「ZONE」の状態
- ◎「器」としての身体の中身
- ◎自己の中に潜む他者
- ◎細部に捕われる自我
- ◎失った右足か、残った左足か
- ◎ゆらぎを取り込むリーダーシップ
- ◎「脳」と「心」と「身体」のAIDAを体感するワークショップ



第5講 2014.2.1 [会場] ゴートクジISIS

「精神医学で診る [脳] と [心] と [身体]」

ゲスト：香山リカ (精神科医)

- ◎個人の相似形としての近代社会
- ◎脳機能としての「自分」
- ◎病の持つ「創造性」
- ◎システム社会における文明の病
- ◎ネットワーク型セルフ
- ◎失望・喪失と精神医学
- ◎「闇の力」を借りる



第6講 2014.3.1 [会場] ゴートクジISIS

「松岡塾長による塾生レポート高速再編集 松岡塾 ソロ講義  
～千夜千冊とヒットソングでつなぐ [脳] と [心] と [身体]」

- ◎千夜千冊高速解説
- ◎近代における「心」の役割
- ◎21世紀に必要な精神病理学
- ◎多重性を取り込む組織の「型」
- ◎日本の持つダブルスタンダード
- ◎創発を導く相補的分裂生成
- ◎松岡正剛の「鉄学・尾学・恋学」

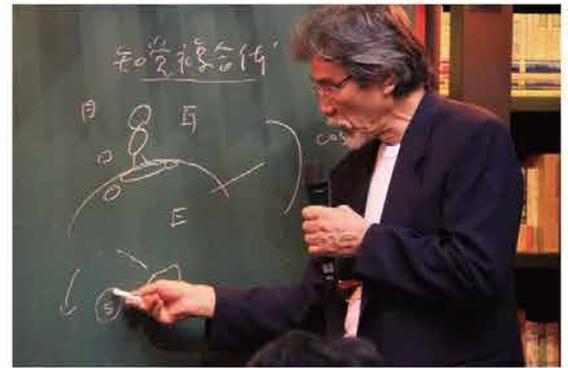


第1講 2014.10.4 [会場] ゴートクジISIS

松岡塾長ソロ講義

「アートとサイエンスのAIDAを編集する」

- ◎「AIDA」で世界をみる
- ◎寅彦が詠んだアート&サイエンス
- ◎ターナーが描いた文明の「AIDA」
- ◎セイゴオ流マーキング読書術
- ◎「数寄」から生まれた日本のアート
- ◎「異質」が「創発」を生む



第2講 2014.11.8 [会場] ゴートクジISIS

「生物進化から見たアートとサイエンス」

ゲスト：長谷川真理子（進化生物学者）

- ◎ティンバーゲンの4つの「なぜ」
- ◎生命が持つ共通の機能
- ◎遺伝子で見るヒトとラットの類似性
- ◎合目的性のない生物進化プロセス
- ◎生命の時間・文明の時間
- ◎生物進化論的に見た現代人
- ◎アートとサイエンスのルーツ



第3講 2014.12.6 [会場] KARAS (荻窪)

「身体表現を通して体感するアート」

ゲスト：勅使川原三郎（舞踏家）

- ◎呼吸のなかに潜む思想
- ◎「弱さ」というインテリジェンス
- ◎身体を通過した技術
- ◎組織としての自己、個としての自己
- ◎身体から生まれる言葉
- ◎晒すこと、隠すこと



第4講 2015.1.10-11 [会場] 金沢

「アートをめぐる伝統と現代、創作と鑑賞のAIDA」

ゲスト: ミヤケマイ (美術家)

- ◎光と影のアート
- ◎掛軸のアワセとカサネ
- ◎タブローと絵画の関係
- ◎認知・記憶・想起
- ◎トポスが司る「編集起動性」
- ◎アート市場が失ったもの
- ◎「見立て」とイマジネーション



第5講 2015.2.2 [会場] ゴートクジISIS

「インフレーション理論からひも解くサイエンス」

ゲスト: 佐藤勝彦 (宇宙物理学者)

- ◎プロセスエンジニアリングと発生論
- ◎「歴史的現在」という視点
- ◎宇宙にははじまりがあった
- ◎真空エネルギーと「自発的対称性の破れ」
- ◎「ヒッグス場」が支配する宇宙
- ◎鍵と鍵穴でみる世界
- ◎トップデファクトスタンダードとしての科学



第6講 2015.3.7 [会場] ゴートクジISIS

松岡塾長ソロ講義

「アートとサイエンスをむすぶ編集的世界観」

- ◎塾生・千夜千冊解説
- ◎松岡塾長・高速講義
- ◎「here」と「there」、既知・未知・無知
- ◎懐手して宇宙見物
- ◎ゆらぎ、リスク、相転移
- ◎「対象知」と「方法知」
- ◎アルス・コンビナトリア



第1講 2015.10.10 [会場] ゴートクジISIS

松岡塾長ソロ講義

「 難民問題から神と仏、聖と俗のAIDAへ 」

- ◎初めて文字をもった世界宗教とは
- ◎東と西、北と南のAIDA
- ◎罪と罰、穢れと浄め
- ◎仏教が示す「感じるロジック」
- ◎棄民思想と難民問題
- ◎第一次文明戦争とクルドの民



第2講 2015.11.14 [会場] ゴートクジISIS

「 アーリア人とアラブの春のAIDA 」

ゲスト: 青木健(宗教学者)、重信メイ(ジャーナリスト)

- ◎アッシリア学・エジプト学・イラン学
- ◎アラビア語とイスラム世界
- ◎アラブ世界におけるメディアの隆盛
- ◎オスマン・トルコの脅威
- ◎十字軍と聖遺物とエルサレム
- ◎宗教が先か、モラルが先か



第3講 2015.12.5 [会場] ゴートクジISIS

「 キリスト教と仏教、日本人の宗教観 」

ゲスト: 橋爪大三郎(社会学者)

- ◎主権は誰にあるのかという問題
- ◎仏陀は悟った「人」
- ◎「契約」の原理
- ◎引用の書物「聖書」
- ◎人間であるための条件
- ◎日本的価値観の再構成へ



第4講 2016.1.16-17 [会場] 出雲  
「客神の日本と異質なもののAIDA」  
ゲスト：安藤礼二(文芸評論家)

- ◎折口信夫が見た出雲
- ◎日本に息づく神祇信仰
- ◎モノと言霊の関係
- ◎神話に見る「リアル」と「バーチャル」
- ◎「結び」から生まれた日本
- ◎「異質なもの」と共生する



第5講 2016.2.11 [会場] ゴートクジISIS  
「日本の「伝統」と、日本人の死生観、来世観」  
ゲスト：末木文美士(仏教学者)

- ◎日本国憲法の普遍主義
- ◎大伝統・中伝統・小伝統
- ◎人格モデルとしての菩薩
- ◎他者・死者・神仏をめぐるケア
- ◎日本人の来世観
- ◎逆境の中で育つ思想



第6講 2016.3.5 [会場] ゴートクジISIS  
「一神教の価値観と日本の穢れと浄め」

松岡塾長ソロ講義

- ◎音楽と世界の宗教
- ◎一神教のアート・文学・価値観
- ◎現代日本が生んだゴスペル
- ◎音としてのコーランがもつ力
- ◎涅槃のメンタルモデル
- ◎日本の「穢れ」と「浄め」の正体



第1講 2016.10.5 [会場] ゴートクジISIS

松岡塾長ソロ講義

「イサム・ノグチから読む「匠の目」」

- ◎あられるもの・あられたもの
- ◎「神・妙・能」の名人と逸格
- ◎生と死の間の「代」
- ◎数寄で合わせる
- ◎シーンの裏を読む
- ◎身体文化距離感覚



第2講 2016.11.5 [会場] ゴートクジISIS

「デザインとアートでクリエイティブを語る」

ゲスト：深澤直人・舘鼻則孝

- ◎日本のありどころを物で伝える
- ◎日本をそのまま輸出する「文楽」
- ◎アンビエントのデザイン
- ◎身体化という共有の喜びを美に転換する
- ◎アトモスフィアのセンサー
- ◎「とってくるもの」と「やってくるもの」



第3講 2016.12.3 [会場] ゴートクジISIS

「アンビエントにフォーカスし、編曲する」

ゲスト：井上鑑

- ◎名演と名曲の関係
- ◎アンビエントに引き込む手口
- ◎焦点から全体を想像させる
- ◎音楽を言語的に構築する
- ◎音を引き継ぐこと・共有すること
- ◎「聴く」の教育



第4講 2017.2.11 [会場] ゴートクジISIS

「到達の先に真価を映す」

ゲスト：杉本博司

- ◎通貨としてのアートの可能性
- ◎外界に投影される内なるビジョン
- ◎薄さに映えるディテール
- ◎途中にナッシングを置く
- ◎文字のない古代の感性レベル
- ◎アートと真実が一体化していた時代の「緊迫感」



第5講 2017.3.4-5 [会場] 飛騨高山

「本質の瀬戸際に遊ぶ。化物を表わす」

ゲスト：挾土秀平

- ◎空間が空気を作る
- ◎用意周到と表現の一瞬
- ◎和と洋と未来の折衷
- ◎風景の時間の修復をする
- ◎世界は盆に乗る
- ◎文化を壊す政治と消える美学の職人



第6講 2017.3.24 [会場] ゴートクジISIS

松岡塾長ソロ講義

「現れたものを、どう表すのか」

- ◎価値のエマージョント性
- ◎物についての哲学
- ◎破れていく自分を見極める
- ◎鍵と鍵穴を交換する
- ◎教寄に向かう編集



第1講 2017.10.7 [会場] ゴートクジISIS  
「物質・反物質から「存在の意味」を問う」

ゲスト：多田将

- ◎反発する力でカタチが保たれている
- ◎対消滅と対生成
- ◎イマジネーションが人類の財産
- ◎比の思考、差の思考
- ◎ハンズの棚に物を置くこと
- ◎失敗の価値



第2講 2017.11.3 [会場] ゴートクジISIS  
「数学の在処と人の心の作用するところ」

ゲスト：津田一郎、池上高志

- ◎他者性の中の数学
- ◎行動のベースになる3つのマインド
- ◎指数関数的テクノロジーに気づくということ
- ◎環境と相互作用することで立ち上がる生命
- ◎機能論的生命・存在論的生命
- ◎他者性の理解と了承



第3講 2017.12.2-3 [会場] 大阪  
「「関係」によって表出する「人間」」

ゲスト：石黒浩、ドミニク・チェン

- ◎人間らしい表情は人間と関わりを持てる
- ◎そもそも意識は存在するのか
- ◎無機物の知的生命体を目指して
- ◎糠床とブロックチェーン
- ◎対話と共話
- ◎欲望が勝手に実現する縁起



第4講 2018.1.20 [会場] ゴートクジISIS  
「現在から未来を繋ぐ間のバーチャル」  
ゲスト：宮川祥子、水口哲也

- ◎情報と意思決定のすきま
- ◎ヴァルネラビリティの発露と遷移を捉える
- ◎感覚を解体する
- ◎時間と場所を越えたテクノロジー
- ◎欲望未満状態の本質
- ◎VRをフィルターにリアルを喚起する



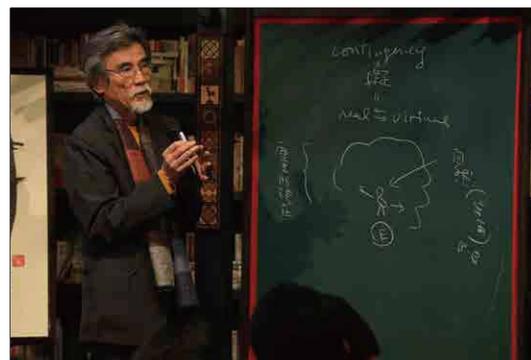
第5講 2018.2.3 [会場] ゴートクジISIS  
「テクノロジーの可能性と人間性と権利」  
ゲスト：松尾豊、武邑光裕

- ◎子どものできることで難しい
- ◎言葉という報酬系
- ◎100次元空間での認知の可能性
- ◎ロボティズムとエンジェリズム
- ◎痛覚は人間の砦
- ◎同質性に基づく特異性



第6講 2018.3.3 [会場] ゴートクジISIS **松岡塾長ソロ講義**  
「意味のプロジェクション」

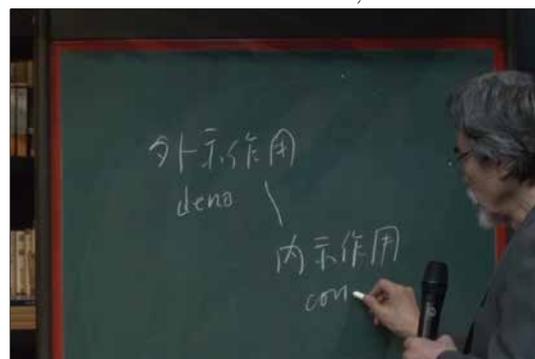
- ◎リアル・バーチャルとはなにか
- ◎行きの貸し方、帰りの返し方
- ◎すべては「人間とは何か」
- ◎2つの「is」を混ぜるシステム
- ◎アナロジー・アブダクション・アフォーダンス
- ◎天使はメディアである



第1講 2018.10.6 [会場] ゴートクジISIS 松岡塾長ソロ講義

「編集工学とエディティングセルフ」

- ◎デジタル時代に再考すべきコードとモード
- ◎「コードとモード」は「読みと見せ」
- ◎コードとモードはどのように組み立てられてきたか
- ◎AIDAのediting self
- ◎創：エディティングキャラクターをつくってみる
- ◎グローバルゼーションはコードとモードを押し込めた



第2講 2018.11.3 [会場] ゴートクジISIS

「アニメな世界観が枯渇している」

ゲスト：押井守

- ◎アニメーションは編集的オーケストレーション
- ◎アリストテレスのアニメ
- ◎映画の3要素「SCV」
- ◎「SCV」の三角形とお金による実体化
- ◎クリエイティブ＝「わからない」をつくること
- ◎ゲームの情報量は映画の一桁上
- ◎エンタテインメント暴力とエロ：デジタルドラッグ



第3講 2017.12.1-2 [会場] 奄美大島

「場とクレオール多重露光」

ゲスト：今福龍太

- ◎死と生のパッサージュ
- ◎ジェロニモの遺言
- ◎われわれは難破者である
- ◎自然を汲み取るうた
- ◎風と底層に響くドローン
- ◎薄墨色と群島
- ◎コードをモードで読み替える
- ◎聖なるものとの遊び



第4講 2019.1.12 [会場] ゴートクジISIS

「面影が重なる器」

ゲスト：樂吉左衛門

- ◎連歌の様式から茶の湯へ
- ◎面影に差し出す器
- ◎セクシャルなものに向かう個
- ◎利休と長次郎
- ◎形に言葉を与えられるか
- ◎日常にドスを突きつける
- ◎名付けようのないものに向かう
- ◎自己意識と自然との握手



第5講 2019.2.2 [会場] ゴートクジISIS

「芸と人、守破離の話芸。」

ゲスト：柳家花緑

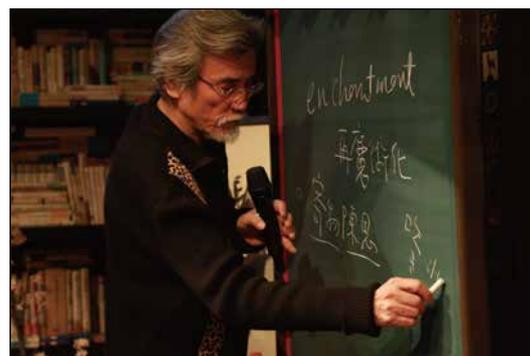
- ◎高座の話芸とは
- ◎小さんと花緑
- ◎「芸は人なり」
- ◎うまいとヘタのらしさ
- ◎守に戻る守破離
- ◎同時代こそ落語
- ◎落語のモードはもっと変わっていい



第6講 2019.3.2 [会場] ゴートクジISIS **松岡勉長ソロ講義**

「コード・ブレイカーとモードクリエイターへ」

- ◎自分のコードと最魔術化
- ◎らしさをどこまで追求するか
- ◎われわれは相転移する
- ◎いちばん大事なコードは生命
- ◎デカルトからベイトソンへ
- ◎実存ではなく



第1講 2019.10.5 [会場] 第一ホテル東京シーフォート／銀河劇場

「いにしえを稽える「型」を受け継ぐ人と場」

ゲスト：井上麻耶

- ◎型を作ってきた世界
- ◎全体を“ブーツストラップ”する指導が必要
- ◎評判ではない「評価」を言わなくなった社会
- ◎平均化・標準化ではなく、一度落として上げる
- ◎平時にこそ有事をつくる
- ◎演劇における本番とは何か
- ◎人と人との間の摩擦でこそ成長する
- ◎逃げ道を作らないことで見える世界



第2講 2019.11.2 [会場] オービック習志野グラウンド

「平時のトレーニングに埋め込む想定外」

ゲスト：並河研、大橋誠

- ◎選手の1秒はコーチの1時間
- ◎想定外のことを徹底して想定するゲームプランニング
- ◎先の見えないトレーニングを設計する
- ◎勝ち負けもプロセスの間にある
- ◎リスクをオプションでカバーし切れるのか
- ◎最前線の人間が、全体も認知する状態をつくる
- ◎感性や精神力を鍛える日常の稽古の重要性
- ◎準備したものをどこでリリースするか



第3講 2019.12.7-8 [会場] 国立劇場／本楼／伝統芸能情報館

「何をもって、何をあらわすのか」

ゲスト：吉田玉男、鶴澤清介、竹本千歳太夫他

- ◎人形遣いは足10年、左10年、主遣いは一生の稽古
- ◎技術以上に必要な生きた音とリズム
- ◎「代わり」である人形遣いを見せるニッポンの文楽
- ◎心象風景を表現するとは
- ◎音と音のあいだを引き取る、アフタービートの三味線
- ◎才能を見抜く眼をどう磨くのか
- ◎細かい視点と大きな視座の指導
- ◎「けり」をつける日本文化の様式



第4講 2020.1.11 [会場] 池袋ロサ会館/ビリヤード・ロサ

「イメージの球学、日本人の美学」

ゲスト：大井直幸

- ◎0.1mmの成功と失敗の間
- ◎気持ちと言い訳が結果に出る
- ◎毎回同じことを違う心情や方法でトレーニングする
- ◎正直であることを大切にする
- ◎結果だけでなく、細かい部分にこだわる
- ◎歩くと同じように球を入れたい
- ◎イメージがないから、結果を求めて失敗する
- ◎道筋のプランではない、タッチをイメージする



第5講 2020.2.8 [会場] 遠州茶道宗家

「手続きの知と茶の湯」

ゲスト：小堀宗実

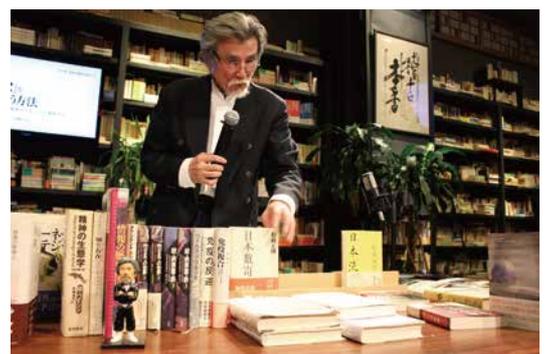
- ◎何の情報をINしてOUTするのか
- ◎心身を整えるチャンスが路地から始まる
- ◎モノを清めることで人と場が清められていく
- ◎満つれば欠くる、遠州流のふくさ裁き
- ◎主と客の間合いが場をつくる
- ◎全体の景色を記憶する、人の迷いを観察する
- ◎一挙手一投足の所作を見る指導
- ◎手続きが全てのもてなし・しつらい・ふるまいを支える
- ◎きっぱりする潔さこそが綺麗さび



第6講 2020.4.25 [会場] ゴートクジISIS

「情報生命のゆくえ」

- ◎有事と平時の間に欠けていたもの
- ◎有事（エマージェンシー）は創発の機会になる
- ◎システムに小さな危機を入れる
- ◎非自己を排除しない自己をどう用意するか
- ◎ほんととつもりは区別がつかない
- ◎失われた20年と世界と日本のまちがい
- ◎平時に埋め込まれた別様の可能性を掴む
- ◎情報とは一体何であるかを生命から考える



ハイパーコーポレートユニバーシティ



[AIDA] Hyper Corporate University